

教員養成セミナー 8月号
トレーニング動画

12カ月完成
教職・一般教養
受講ノート

◆第11回◆教育時事①
「令和の日本型学校教育」 (答申)

講師：本田 辰雄

テーマ1

「令和の日本型学校教育」 (答申)

テーマ1

「令和の日本型学校教育」 (答申)

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力ー①

加速する社会の変化

人工知能 (AI) , ビッグデータ, Internet of Things

(IoT) , ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた**Society5.0**時代が到来しつつあり, 社会の在り方そのものがこれまでとは「(1 **非連続**)」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。

テーマ1

「令和の日本型学校教育」 (答申)

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力ー①

Society5.0とは

サイバー空間 (仮想空間) と **フィジカル空間** (現実空間) を高度に融合させたシステムにより, 経済発展と社会的課題の解決を両立する, (2 **人間中心の社会**) (Society) のこと。

狩猟社会 (Society1.0), **農耕社会** (Society2.0), **工業社会** (Society3.0), **情報社会** (Society4.0) に続く, 新たな社会を指すもので, **第5期科学技術基本計画**において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

テーマ1

「令和の日本型学校教育」 (答申)

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力ー①

Society5.0でどのような社会が実現されるのか？

Society5.0で実現する社会は、IoT (Internet of Things) で全ての**人**と**モノ**がつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな(3 **価値**)を生み出すことで、膨大なデータの分析作業、年齢や障害などによる制約等の課題や困難を克服する。(中略)社会の変革(イノベーション)を通じて、これまでの閉塞感を打破し、**希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会**となる。

テーマ1

「令和の日本型学校教育」 (答申)

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力－① 育成することが求められている資質・能力

このように急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、**自分のよさ**や**可能性**を認識するとともに、あらゆる他者を（4 **価値のある存在**）として尊重し、多様な人々と**協働**しながら様々な社会的変化を乗り越え、**豊かな人生**を切り拓き、（5 **持続可能な社会**）の創り手となることができるよう、その**資質・能力**を育成することが求められている。

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力－①

育成することが求められている資質・能力

この資質・能力とは、具体的にはどのようなものであろうか。中央教育審議会では、平成28年答申において、社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば難しい時代になる可能性を指摘した上で、変化を前向きに受け止め、社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにする必要性等を指摘した。とりわけ、その審議の際に AI の専門家も交えて議論を行った結果、次代を切り拓く子供たちに求められる資質・能力としては、文章の意味を正確に理解する（6 読解力）、教科等固有の（7 見方・考え方）を働かせて自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し（8 新しい解や納得解を生み出す力）などが挙げられた。

テーマ1

「令和の日本型学校教育」 (答申)

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力-①
育成することが求められている資質・能力
また、(9 **豊かな情操**) や (10 **規範意識**)、**自他の生命の尊重**、(11 **自己肯定感・自己有用感**)、**他者への思いやり**、**対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力**、**困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力**、(12 **公共の精神**) の育成等を図るとともに、子供の頃から各教育段階に応じ (13 **体力の向上**)、**健康の確保**を図ることなどは、どのような時代であっても変わらず重要である。

2. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力-②

国際的な動向

国際的な動向を見ると、国際連合が平成27（2015）年に設定した**持続可能な開発目標（SDGs）**などを踏まえ、自然環境や資源の有限性、貧困、イノベーションなど、地域や地球規模の諸課題について、子供一人一人が自らの課題として考え、（1 **持続可能な社会づくり**）につなげていく力を育むことが求められている。

2. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力-②

国際的な動向

また、経済協力開発機構（OECD）では子供たちが2030年以降も活躍するために必要な資質・能力について検討を行い、令和元（2019）年5月に“**Learning Compass 2030**”を公表しているが、この中で子供たちが**ウェルビーイング**

(Well-being) を実現していくために自ら（2 **主体的**）に目標を設定し、振り返りながら、（3 **責任ある行動**）がとれる力を身に付けることの重要性が指摘されている。

テーマ1

「令和の日本型学校教育」 (答申)

2. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力-②

持続可能な開発目標 (SDGs) とは

平成27 (2015) 年9月の国連サミットで採択された「**持続可能な開発のための2030アジェンダ**」に記載されている2030年を期限とする開発目標のこと。**17**のゴール・**169**の**ターゲット**から構成される。ゴールには、「貧困をなくそう」「質の高い教育をみんなに」等が設定されている。

テーマ1

「令和の日本型学校教育」 (答申)

2. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力-②

ウェルビーイングとは

OECD は「**PISA2015年調査国際結果報告書**」において、**ウェルビーイング (Well-being)** を「生徒が幸福で充実した人生を送るために必要な、 (4 **心理的**) , **認知的**, (5 **社会的**) , **身体的な働き (functioning)** と**潜在能力 (capabilities)** である」と定義している。

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿 子どもの学びの方向性

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による臨時休業の長期化により、多様な子供一人一人が自立した学習者として学び続けていけるようになってきているか、という点が改めて焦点化されたところであり、これからの学校教育においては、子供が ICT も活用しながら自ら学習を調整しながら学んでいくことができるよう、

「（1 **個に応じた指導**）」を充実することが必要である。この「（1 **思考力・判断力・表現力**）」の在り方を、より具体的に示すと以下のとおりである。

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿 指導の個別化

全ての子供に**基礎的・基本的な知識・技能**を確実に習得させ、
(2 思考力・判断力・表現力) 等や、**自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度**等を育成するためには、**教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うこと**などで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の(3 **特性**)や(4 **学習進度**)、(5 **学習到達度**)等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「**指導の個別化**」が必要である。

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿 学習の個性化

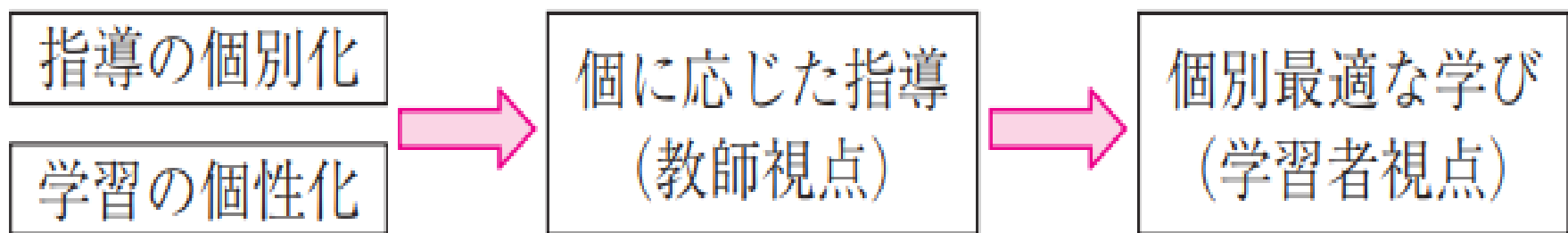
基礎的・基本的な知識・技能等や、(6 **言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力**) 等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の**興味・関心・キャリア形成の方向性**等に応じ、探究において(7 **課題の設定**)、**情報の収集**、(8 **整理・分析**)、**まとめ・表現**を行う等、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する「**学習の個性化**」も必要である。

テーマ1

「令和の日本型学校教育」 (答申)

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿
個別最適な学び

以上の「**指導の個別化**」と「**学習の個性化**」を教師視点から整理した概念が「**個に応じた指導**」であり、この「**個に応じた指導**」を学習者視点から整理した概念が「**個別最適な学び**」である。



テーマ1

「令和の日本型学校教育」 (答申)

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿
これからの学校においては、子供が「**個別最適な学び**」を進められるよう、教師が専門職としての知見を活用し、子供の実態に応じて、学習内容の確実な定着を図る観点や、その理解を深め、広げる学習を充実させる観点から、（9 **カリキュラム・マネジメント**）の充実・強化を図るとともに、これまで以上に子供の**成長やつまずき**、**悩み**などの理解に努め、個々の（10 **興味・関心・意欲**）等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、**主体的**に学習を調整することができるよう促していくことが求められる。

テーマ1

「令和の日本型学校教育」 (答申)

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿 ICT を活用する

その際、ICT の活用により、**学習履歴 (スタディ・ログ)** や (11 **生徒指導上のデータ**)、**健康診断情報**等を蓄積・分析・利活用することや、教師の負担を軽減することが重要である。また、**データの取扱い**に関し、配慮すべき事項等を含めて専門的な検討を進めていくことも必要である。

子供が ICT を日常的に活用することにより、自ら (12 **見通し**) を立てたり、(13 **学習の状況**) を把握し、(14 **新たな学習方法**) を見いだしたり、自ら**学び直し**や (15 **発展的な学習**) を行いやすくなったりする等の効果が生まれることが期待される。

テーマ1

「令和の日本型学校教育」 (答申)

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿 ICT を活用する

国においては、このような学習者や ICT 活用の視点を盛り込んだ「**個別最適な学び**」に関する指導事例を収集し、周知することが必要である。

さらに、「**個別最適な学び**」が「(16 **孤立した学び**)」に陥らないよう、これまでも「**日本型学校教育**」において重視されてきた、**探究的な学習**や**体験活動**などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と**協働**しながら、あらゆる他者を**価値のある存在**として尊重し、様々な**社会的**な変化を乗り越え、**持続可能な社会**の創り手となることができるよう、必要な**資質・能力**を育成する「**協働的な学び**」を充実することも重要である。

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿 「協働的な学び」の注意点

「**協働的な学び**」においては、集団の中で個が埋没してしまうことがないように、「(17 **主体的・対話的で深い学び**)」の実現に向けた授業改善につなげ、子供一人一人の**よい点**や**可能性**を生かすことで、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出していくようにすることが大切である。「協働的な学び」において、同じ空間で時間を共にすることで、お互いの感性や考え方等に触れ刺激し合うことの重要性について改めて認識する必要がある。

テーマ1

「令和の日本型学校教育」 (答申)

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

人間同士のリアルな関係づくりは社会を形成していく上で不可欠であり、(18 **知・徳・体**) を一体的に育むためには、教師と子供の関わり合いや子供同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する**実習・実験**、地域社会での**体験活動**、専門家との交流など、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性が、AI 技術が高度に発達する **Society5.0** 時代にこそ一層高まるものである。

テーマ1

「令和の日本型学校教育」 (答申)

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

また、「協働的な学び」は、同一学年・学級はもとより、**(19 異学年間の学び)** や**他の学校の子供**との学び合いなども含むものである。**(18 知・徳・体)** を一体で育む「**日本型学校教育**」のよさを生かし、**学校行事**や**児童会(生徒会)活動**等を含め学校における様々な活動の中で**異学年間の交流の機会を充実することで、子供が自らのこれまでの成長を振り返り、将来への展望を培うとともに、(20 自己肯定感)** を育むなどの取組も大切である。

テーマ1

「令和の日本型学校教育」 (答申)

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿
ICTで「協働的な学び」を発展させる

さらに、ICTの活用により、子供一人一人が自分のペースを大事にしながらか共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ**合意形成**を図る活動など、「**協働的な学び**」もまた発展させることができる。ICTを利用して(21 空間的・時間的制約)を緩和することによって、遠隔地の専門家とつないだ授業や他の学校・地域や海外との交流など、今までできなかった学習活動も可能となることから、その新たな可能性を「(17 **主体的・対話的で深い学び**)」

の実現に向けた授業改善に生かしていくことが求められる。

テーマ1

「令和の日本型学校教育」 (答申)

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿
授業づくりの注意点

学校における授業づくりに当たっては、「**個別最適な学び**」と「**協働的な学び**」の要素が組み合わさって実現されていくことが多いと考えられる。各学校においては、教科等の特質に応じ、**地域・学校や児童生徒の実情**を踏まえながら、授業の中で「**個別最適な学び**」の成果を「**協働的な学び**」に生かし、更にその成果を「**個別最適な学び**」に還元するなど、「**個別最適な学び**」と「**協働的な学び**」を一体的に充実し、「(17 **主体的・対話的で深い学び**)」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。

テーマ1

「令和の日本型学校教育」 (答申)

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿 授業づくりの注意点

その際、**家庭や地域**の協力も得ながら人的・物的な体制を整え、教育活動を展開していくことも重要である。

国においては、このような「**個別最適な学び**」と「**協働的な学び**」の一体的な充実の重要性について、関係者の理解を広げていくことが大切である。

したがって、目指すべき「令和の日本型学校教育」の姿を「**全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現**」とする。

教員養成セミナー8月号
トレーニング動画

12カ月完成
教職・一般教養
受講ノート

◆第11回◆教育時事①
「令和の日本型学校教育」 (答申)

講師：本田 辰雄